

にいがた

北から南から



受け継がれる

「人類の願い…戦争放棄」

山崎 徹

「興琳寺さん、寺泊にも『憲法9条の会』を作ろうと思っっているのですが、代表になっていただけますでしょうか。」

昨年の三月二十六日、私は、母の月命日にお経をあげにこられた善提寺、興琳寺（浄土真宗大谷派）の中村興樹（ご）住職にお願した。それは、数年前、参列したあるお通夜の法話で、ご住職が平和の尊さや日本国憲法九条について話されていたことが鮮明に心に残っていたからだ。ご住職は、一言「分かりました。」と即答された。

四月に入り、私の所に「新潟県9条の会」のポスターが届いた。私は、一番にk先生を訪問し、

「先生、新潟県九条の会のポスターです。ぜひ張っていたきたいのですが。」とお願した。k先生は、

「見えるところに張ればいいの。」

と即答され、通りからも見えるように家のガラス窓にさっそく張り出された。私は胸が熱くなり、涙を止めることができなかつた。八十歳を過ぎているk先生と私は二十数年ほど前、同じ学校、同じ学年で教職を共にしていた。温和で、子ども達の心をしっかりとつかんでおられたk先生。めつたに政治的な発言や行動をしなかつたk先生。先生は、「私ももう少し早く生まれていたら、戦争に行っていたからね。」

と話された。k先生は、「良寛の里（出雲崎・和島・与板・寺泊・分水）9条の会」の呼びかけ人にも名を連ねた。

私は、中村（ご）住職とk先生の「即答」で、「自分と自分につながる多くの人が暮らしている寺泊にしっかりと根を張った九条の会ができる」と確信した。



浄土真宗大谷派は、前の戦争に協力したこ

とを真剣に検証し、その反省の上に再び過ちを犯さないよう非戦の誓いを明らかにしている。また、集团的自衛権、秘密保護法など軍国主義につながる法案に宗派として反対し、平和憲法を守る立場を明確にしている。しかし、寺泊の教育委員長もされた中村興樹ご住職が「9条の会」の代表を快諾されたのは、「仏教徒は平和主義者であるべき」との思いからだけだろうか。

一人の新採用教員

寺泊出身の元新潟県中学校校長会会長、嘉村正規先生は一九四八年、寺泊中学校に新採用教員として着任した。

嘉村先生は、旧制中学五年生の時に徴用され、学徒勤労動員として名古屋の軍需大工場へと行かれた。同級の半分は、予科練や軍関係の学校に行った。飛来するB二九の爆音の中、落下する焼夷弾の合間を縫って友と名前を呼び合い、はぐれないように一緒に逃げ回り

生き抜いてこられた。

敗戦直後、嘉村先生は母と弟二人で、午前三時に起き、浜辺で「塩炊き」をし、塩を米に代えて生き抜いてこられた。母は、栄養失調になりかけた嘉村先生と弟に生きているナツメウナギの生き血を吸わせ、焼いて食べさせた。寺泊中学校での十数年間、嘉村先生は日本国憲法の平和主義・基本的人権の尊重・主権存民の精神で存分に「私の授業」に取り組まれた。

「嫁に行く時、婿に行く時もタンスの中に『あたらしい憲法のはなし』は入れて持っていくように。」

と話されたことは、嘉村先生も当時の教え子もよく覚えていてという。寺泊には、嘉村先生から影響を受け、嘉村先生を慕っている教え子が多い。その教え子は今では七十歳後半。

中村興樹ご住職は嘉村先生の直接の担任ではなかったが、先生の教育活動を信頼していた一人だった。嘉村先生中村ご住職との交流は今でも続いている。ご住職は、「昔は正月の

にいがた

北から南から



二日、『先生と十二時間飲む会』をやったりしてね。」

と話されていた。

また、当時、興琳寺は寺泊の民主運動のセンター的な場所でもあったという。嘉村先生が卒業生などを組織して取り組んだ「ローラー」という生活綴り方運動に、興琳寺の先代のご住職はお寺を貸して支援した。寺泊町役場に労働組合を立ち上げるたたかいかいでもセンターは興琳寺だった。

戦後の民主主義教育と民主主義運動が

中村興樹ご住職が「9条の会」の代表を快諾されたのは、戦後の民主教育の実践と民主主義運動が、「人類の願い：戦争放棄」の思想として受け継がれてきたからではないかと思つた。

嘉村先生は、ある教え子への私信に、

「第九条は、国家を超えて人類の願いを象徴しています。…初めての学級担任があなたたちでした。日本一の代用教員をもって任じた石川啄木の情熱そのままに、私は民主主義教

育を工夫しました。当時の教員は、敗戦直後の解放感と新教育の理念の新鮮さに励まされて、誰に遠慮することも無く、自由な教育を夢見て、個性を発揮することがあたりまえでした。」と書いておられる。

中村ご住職は、「良寛の里9条の会」発会式（二〇一四年九月二八日）の開会の挨拶で「…憲法論議、特に九条の話になりますと、この憲法は占領下におけるお仕着せの憲法だと言われます。…しかし、この九条は、起草に参加した占領国の関係者が自国の憲法には盛り込めない『人類の願い』である『戦争放棄』という条文を日本の憲法に託したのではないのでしょうか。戦争のない平和な地球は全世界人類の願いです。その願いの託されている九条を是非守って参りましょう。」と呼びかけた。

歴史のリレーランナーとして、私は嘉村先生、中村ご住職、k先生の思いを「この寺泊の地に」と決意している。

（やまさきとおる・長岡市寺泊）